

## 第5次塩竈市長期総合計画進捗報告会 議事録

### 1 日時・場所

令和元年7月13日(土) 14:00~16:50 於 塩竈市魚市場中央棟大会議室

### 2 出席者

長期総合計画策定時の審議委員(7名)、市民懇談会委員(11名)、一般(7名)、市議会議員(3名)、市長、副市長、教育長、各部長・事務局(16名)、(計44名)

### 3 概要

#### (1) 開 会

#### (2) 市長挨拶

#### (3) 計画及び主要事業の取組状況について(報告・評価)

- ① 市民総務部長から長期総合計画の全体構成の説明
- ② 政策調整監から長期総合計画指標の推移の説明
- ③ 建設部長から震災復興計画の進捗状況と課題について説明
- ④ 各部の主要事業の取組状況等を報告し、1件ごとに委員18名から5点満点で採点いただいた。

#### ○ 採点結果

- ◆ 平均点数 4.12
- ◆ 詳細は別紙1を参照。

主な意見交換内容は(項目4)のとおり

総括は(項目5)のとおり

#### (4) その他

#### (5) 閉会

### 4 委員との意見交換内容

#### (1) 「第1編 だれもが安心して暮らせるまち」について

##### ① 報告No.1(待機児童ゼロ推進事業)について

(質問) 参考資料にあるような企業主導型保育所について、水産加工団地の企業と協力して、大人数でなくてももっと増やす取組は出来ないのか。

→ (健康福祉部長) 昨年新浜町エリアで企業向けに情報提供の説明会を開催したところ、2か所手を挙げていただいた。この制度は児童育成協会という国の機関に申請をして、対象可否の判断をされた結果、1か所のみ開設となった。市としては申請に当たっての助言などを再度地元の企業にさせていただくなどして、地場産業を支えるという側面もあるので、こういった制度を活用して保育の枠の拡大に努めてまいりたい。

(質問) 保育所や幼稚園に入れずに家庭で育てている人数の把握はしているか。  
→ (健康福祉部長) 3歳以上と3歳未満では大きく異なり、3歳以上についてはほぼ100%の子どもたちが保育所や幼稚園に通っている。3歳未満については、10年前は57%程度の方が保育所に預けていたが、現在は70%弱の方が預けているという状況である。

② 報告 No. 2 (子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業) について

③ 報告 No. 3 (100円バス運行事業) について

(質問) 先日青バスに乗ったところ、「Suica」が使えなかった。運転手からは機械が無いから使えないと言われたが、今は使えるようになったのか。また、ミヤコーバスの100円バスは使えるのに白・青のバスはなぜ使えないのか。  
→ (市民総務部長) 100円バスは全てあわせて4,100万円程度の経費で運行しており、市民一人当たりになると750円ほどである。「Suica」を導入するにあたっては、1億円程度かかるということであり、ミヤコーバスについてはかなりの台数を持っている中の一部で塩竈市内を運行していただいているが、コミュニティバスについてはなかなか経費負担が難しいところである。キャッシュレスが進んでいる状況なので、利便性を高める取組については今後も検討してまいりたい。

(意見) 免許証を返納する際に証明書もらうには発行手数料がかかるという話を聞いた。その証明書を持っていると公共の交通機関やタクシーの割引を受けられる自治体もあると聞いているが、そういった取組は考えられないか。  
→ (市民総務部長) 運転経歴証明書の交付の際に手数料がかかるが、交通安全協会に加入している方は割引を受けられるようである。他の自治体ではコミュニティバスなどへの割引を行っているという事例もあるようなので、次の段階として検討していかなければならないと思っている。

(2) 「第2編 海・港と歴史を活かすまち」について

① 報告 No. 4 (魚市場運営事業) について

② 報告 No. 5 (観光プロモーション事業) について

(意見) 本町通りを通る観光客が少なくなっている。旧糸びや旅館は歴史ある雰囲気のある建物だが、景観のためにも目の前の電柱をなんとかしてもらいたい。

→ (建設部長) 元町通りは建物の解体などが進んでいる部分もあり、にぎわいづくりが必要だという認識を持っている。電柱についても、旧糸びや旅館や佐浦酒造など、皆様に見てもらいたい建物が多くあるので、地中化などができればロケーションがもっとよくなると考えている。そういった取組ができるように今後も勉強してまいりたい。

→ (市長) 塩竈には歴史文化を伝える遺産が数多く残されている。そういったものを見過ごしてしまっていることもあるので、本市の職員も自分たちの足元にあ

る素晴らしい歴史文化の見直しをして、全国に発信していく必要がある。「塩竈市景観計画」を策定し、塩竈の景観がどうあるべきかについて、景観計画に基づいて様々な取組をしてまいりたい。旧氈毳や旅館周辺の電柱が歴史文化に水を差しているというご指摘について、今後どのような景観形成をしていくかということも含めて、改めてご説明してまいりたい。

（意見）ボランティアガイドの事務局をしている中で、旅行会社などから依頼を受ける際に、神社のバス駐車場にバスを停めて神社の参拝だけして、松島に行ってしまうというようにならないよう、まちかど博物館やお釜神社に寄っていただくような提案をしている。そういった場合に、一番苦慮するのはバスの駐車場である。できればくるくる広場などにバスを一時的にでも止められる場所を設けてもらえないかというのが願いである。また、表坂をお神輿がのぼったりおりたりする、年に三回の塩竈のお祭りはなかなか他には無いものであるが、地元の方は来ているが新たな観光客はあまり見受けられないので、ぜひPRなどを積極的にしてもらいたい。

→（建設部長）バスの駐車場については、神社の駐車場からだとなかなか下におりていただけないことから、まちなかに駐車場を整備できないかという意見は色々な形でいただいている。長期総合計画とあわせて「都市マスタープラン」を策定してまちづくりを進めているが、その中でも中心市街地の駐車場の必要性は認識しているので、そういった空間が実現できるように取り組んでまいりたい。

→（副市長）市としてもシティセールスの中で必ず塩竈神社とお祭りは入れるようにしている。個人的にも、必ず外に出れば塩竈市のPRとしてお祭りをPRしている。少しずつでも声をかけていかなければ広がっていかないと思うので、全国の主要駅などにポスターを送るなどのPRもしている中で、皆様方も含め市民一人一人がシティセールスをしていくという心掛けをしなければならぬと考えている。

（質問）昨年Wi-Fiの設置に関する質問をして、今年は設置したという説明を受けて非常にうれしく思っている。観光案内施設のWi-Fiの設置状況と今後の増加の見込みについて教えてもらいたい。

→（産業環境部長）観光案内所に設置している。平成30年度の設置の箇所状況は、表坂下、杉村淳美術館、旧氈毳や旅館、亀井邸、壺番館1階、マリゲート、防災センターに設置している。国の予算を活用して設置した状況であるので、今後も補助金等を活用しながら増加させていきたいと考えている。

（意見）「古道」など塩竈は様々な魅力があるまちである。市としても力を入れて市民や観光客に知らしめるともっと良い魅力が出るのではないかと。

→（産業環境部長）芭蕉がどこをどう通ったかということや宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の舞台が塩竈ではないかなど、皆で掘り下げていくことでいろいろと面白い魅力が出てくる。それらは一つの観光資源として取り扱っていけると思うので、皆でそういった素材を掘り下げていけるような機会を作ってまいりたい。

- ③ 代表的な指標②の事業所数について、本年の事業所数が記載されていないが、上がっているのか  
→（産業環境部長）直近の調査の結果が出ていないので記載をしていない状況である。動向として我々が感じているところではH26、28と減少傾向にあり、ここから増えていくというまでには至っていないという感触がある。企業誘致についてもまだ力不足な状況なので、今後もPRに励み、誘致に努めてまいりたい。

### （3）「第3編 夢と誇りを創るまち」について

#### ① 報告 No. 6（子どもの心のケアハウス運営事業）について

（意見）説明の中で、「学校に戻す」とあったが、教育は勉強して学力を向上させて学校に戻すことがねらいなのか。他の地域では、子供同士が教えているところもあれば、退職した教員がボランティアで教えている取り組みもある。子供同士で教えあうことは大事なこともかもしれないが、上下関係ができてしまうこともある。子供同士で教えあうことと、別の方向も並行して考えていかなければならないのではないのか。

→（教育長）本市においては子供たちに社会をたくましく生き抜く力を身に付けさせたいと考え、その力を学校で鍛えていきたい。不登校には様々な原因や状況があり、そういった子供たちの「居場所」を複数設けることが必要である。以前はけやき教室しかなかったが、コロナなどでは社会的な自立に結びつく学習をしながら、学校に戻れる子は学校に戻り、別な形で学ぶ子は学ぶ。目指すところは社会をたくましく生き抜く力を身に付け、社会で頑張っていける子を育てていきたいという思いで様々な教育活動を準備している

（意見）発達障害についても一辺倒にレッテルを貼ってはいけないので、そういう見極めができる先生がいる学校であれば、様々な課題も加味して取り組んでいけるのではないのか。

→（教育長）福祉部局とも連携し、就学前において障害を抱えていると思われる子どもたちの状況を話し合う場を設けている。割合としては全国平均よりも高い状況でもあるので、幼稚園・保育所をスーパーバイザーが回っており、保育士や幼稚園教諭と話をしながらどういった関わりができるか、助言をしている。小学校の先生にも早い段階で幼稚園・保育所へ行ってもらい、障害の状況をよく理解したうえで小学校において適切な指導ができるように話し合いを行っている。

（質問）説明の中で授業を受けていてもなかなかわかりづらいという子どもたちがいると話があった。以前は「落ちこぼれ」と表現されることがあったと思うが、何か違いはあるのか。

→（教育長）小学校低学年で約5%、中学校三年生で約30%程度の子どもが授業中にわからない状態のままでノートを写しているという状況であった。そういった子どもたちを含めて一人残らず質の高い教育をしたいということが「学びの

共同体」の始まりであった。授業が分からないという点ではいわゆる「おちこぼれ」と同じかもしれないが、わからないのをそのままにしていると、学年を増すごとにその数が増えていくことは間違いない。一斉授業という講義形式による知識・技能の習得は、定着率が低い。学んだことを人に教えることで90%以上の定着率があるということが科学的に証明されている。そういった点も踏まえて、子どもたち同士で教えあうことによってさらに深い学びにつながっていくため、全員が学び続けるという環境を構築できるよう事業を進めている。

（質問）宮城県は昔から学力も体力も良くない状況だが、どうして改善できないのか。

→（教育長）学力は平均正答率として各県の比較をしているが、当初始まった時よりも上位と下位の差は縮まってきている。本市では不登校や発達障害、愛着障害など様々な課題問題を解決しながら授業を進めているところである。体力面では、ある学校では学校の遊具を使って様々な運動をしたり、県で行っている縄跳び競争に参加したりするなどの取組により、県の平均を大きく上回る結果を出した学校もあった。そういった取組を共有しながら、体力を伸ばす取組をしている。また、「わくわく遊び隊」の取組においても子供たちは一生懸命運動しているので、この子供たちが大きくなってきたときに体力が上がってくるのではと期待している。

## ② 報告 No. 7（小中一貫教育推進事業）について

（意見）中学生は反抗期など変化も多い時期でもあるので、小中一貫教育については良いと思うが、教育には専門性もあると思うので、従来通りの専門性は保ってもらいたい。また、いじめなどの問題について、教育委員会や先生の問題が前面に出ているが、生徒同士が自主的に助け合ったり、いじめを止めたりといった行動が必要だと思っている。そういった行動を尊重できるような授業を進めてもらいたい。お互いに教えあったり学びあったりする環境がもっとあっても良いと思うし強調してもらいたい。

→（教育長）ご指摘していただいた内容については、本市で取り組んでいる「学びの共同体」が活躍と交流、人間関係づくりを主軸に置いた授業改革である。以前は一斉授業で講義形式により行っていたが、わからないままずっと座っている子供たちが学年を増すごとに増えていっている。子どもたち自身で互いにわからない問題について相談したり、「教えて」と言われたら必ず教えなければならないというルールづくりをしたり、そういった交流を通して授業をする改善を行っている。その結果として学級満足度や授業への満足度は高まっている。

## ③ 市職員のボランティア活動について

（意見）朝の通学などの見守りのボランティアをしているが、なかなかボランティアが見つからない。定年退職した市の職員が1～2年程度ボランティアをしてくれないかと思うがいかがか。

→（副市長） 常々市長から職員に対して「地域に出なさい」と指示を受けている。例えば市民清掃においては、地域の清掃の後に部単位で本塩釜駅や市立病院、マリゲート周辺などの清掃を行っている状況である。退職した後に地域に出てという良いご提案をいただいたので、退職した後は地域に帰って地域のために働くよう言わせていただきたい。

#### （４） 全般的な質問・意見について

##### ① 部署間の連携について

（意見） 各部署で責任を持って各事業を実施していると思うが、各事業は関係しているの、部署の垣根を越えて取り組んでいてもらいたい。

→（市民総務部長） 第5次長期総合計画では「定住」「交流」「連携」が重要なキーワードであり、連携には企業との連携や市民・NPOとの連携など様々な意味があるが、役所内の風通しもよくしていこうという思いで市長はじめ取り組んでいるので、より一層心掛けてまいりたい。

## 5 総括

### （１） 斎藤教授からの総括

#### ① 全体の印象について

- 第5次長総が8年経って、成果が着々とあがってきていることを嬉しく思う。長総の収穫の時期に入ってきたと思う反面、なかなか難しい面もあり、一律に全部がうまく進んでいるわけでもないと思うが、よりテコ入れをしたり方向を変えて考えたりするなど、まとめの時期に入ってきている。

#### ② まちづくりの目標1「だれもが安心して暮らせるまち」について

報告 No.1（待機児童ゼロ推進事業）について

- 保育ニーズの高まりについて考えてみると、ある意味良いことでもある。保育ニーズの高まりは転入者数増や女性の就労ニーズの高まりということでもあり、働く人が多くなることで市内の企業の活性化や税金を払ってもらえるなど、良い循環が生まれる。そういった観点からも待機児童ゼロ推進事業は大変意義があり、そのニーズに応えることで定住人口に結びつける効果も期待できる。

報告 No.2（子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業）について

- この事業は評価が分かれると思う。結果が目に見えるという意味ではこのような事業が必要だと思う面もあるが、少数者への手厚いサービスということにもなるため、この事業については効果がどうなのかという評価を相当厳しめにする必要があるし、検証していく必要もある。

報告 No.3 100円バス運行事業について

- 高齢者の免許返納にもつながり、良い事業であるためより良いサービスに改良していく必要がある。

### ③ まちづくりの目標2「海・港と歴史を活かすまち」について

#### 報告 No. 4 魚市場運営事業について

- 大黒柱のマグロのブランド化は定着してきており、大きな成果だと思っている。気を緩めることなく訴求を続けてほしい。カツオやイワシ、サバの水揚げが増えているが、観光客への提供など売り方を工夫していくことができれば面白い資源になるのではないか。
- 仲卸市場との連携をもっと緊密にし、この魚市場自体が観光資源として観光需要にどうこたえていくかはまだまだ開発の余地があり、期待している点である。

#### 報告 No. 5（観光プロモーション事業）について

- 関東や南東北をターゲットにしていることはある意味正しいが、もっと仙台市民に訴求をする必要がある。
- NPOやガイドボランティアの活躍は不可欠であり、重要な活動をしているという認識をもっている。市の観光部局や教育部局との連携関係が今後の鍵となり、定期的な連絡会議などを開催し、お互いの課題を話し合うなど、相互に理解しながら良い関係を作っていく必要がある。

## (2) 宮原教授からの総括

### ① 全体の印象について

- 長総も後半戦になり、色々な取組が形になってきたという思いである。今回報告があった事業を聞いていると担当部署の方が具体的に色々工夫をされており、ありきたりな事業ではなく、効果をねらいながら具体的な事業を進めてきたことがよくわかった。

### ② まちづくりの目標1「だれもが安心して暮らせるまち」について

#### 報告 No. 2（子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業）について

- 着実に市内への転入者を増やしていく事業としては有効であったことがわかる。結果を見ると子育て世帯の方が圧倒的に多く、市外から移り住んできているという結果は良いことだと思っている。
- 少数の方へのサービスにとどまらないようにするために、新たに移り住んで来た方々には、例えば塩竈の新しい暮らしを積極的に発信していく役割をお願いするなど良いのではないかと。また、こういった方々をモニターすることなどにより、客観的に塩竈の小さな課題を吸い上げることができると思うので、ぜひ積極的に活用してもらいたい。

### ③ まちづくりの目標2「海・港と歴史を活かすまち」について

## 報告 No. 5（観光プロモーション事業）について

- 計画を立てて終わりではなく、地元の方たちが企画を練っているという話も伺っており、そうした取組が新しい観光資源やプログラムになっていくことは非常に大事なことである。
- NPOのボランティアガイドの方が非常に熱心に喜んで活動をしている姿を見て、塩竈の底力を上げていく方々だと実感している。こういった方々がいることで文化的な面が保存されたり、暮らしを大切にしていく部分に反映されたりすると思うので、観光の面でも連携しながらやっていただきたい。

### （3）大滝教授からの総括

#### ① 全体の印象について

- 長総も終盤に差し掛かり、全体としてはかなりうまく順調に進んできているという印象を持っている。
- 人口減少についても、55,000人は困難かもしれないが、当初この目標を立てた時に目標が高すぎるのではないかという懸念を持っていた。人口も減ってはいるが減少幅はゆるやかになっており、観光客入込数などの他の指標を見ても、震災からの復興・再生がみられ、新しい取組の段階にも入ってきており、全体として良い方向に進んでいると思っている。

#### ② 震災復興計画について

- 塩竈市に限ったことではないが、だんだん復興の中で課題が見えにくくなっている。最近の報道でもあったが、在宅の避難者の問題や災害公営住宅入居者の見守り・ケア、コミュニティの形成など、ソフトの面のケアは非常に重要である。この課題をどうしたらよいかということに注力してほしい。
- 浦戸諸島の復興は課題が大きい。ハードはスピードアップするとの話だが、ソフトの面をどうするかについて目配りをさらにしてもらいたい。
- 2020年で国の復興計画がひとまず終了することから、復興の予算がなくなることによって、復興に携わってきた人たちに課題が出てくる。国の予算を待つだけでなく、市独自の取組が必要になってくるので、NPOなども含めて、復興予算で活動してきた団体に対して、できるだけケアをしてもらいたい。

#### ③ まちづくりの目標1「だれもが安心して暮らせるまち」について

##### 報告 No. 3 100円バス運行事業について

- 次の総合計画に向かって、市全体の公共交通の取組や公共交通をカバーする補完的な取組を精査して、高齢者や障がい者への移送サービスなどとも切れ目なくつないで交通体系をつくることに尽力していく必要がある。この事業を地域全体の交通体系を設計していくことにつなげてほしい。
- 「MaaS (Mobility as a Service)」(マース)というITやスマホなどを使ってシェアリングエコノミーと言われるような新しいモデルを活用して、できるだけ価格を抑えて利便性を高めていく取組が日本・世界中で始まっている。塩



竈でもできることから取り組んでいてもらいたい。

④ まちづくりの目標2「海・港と歴史を活かすまち」について

報告 No. 4 魚市場運営事業について

- うまく順調に動いていると思っている。この方向を進めていってほしいが、漁獲量は海洋資源の問題もあり変動するので、あまり漁獲量だけにとられず、長期的に進めていくようにしてもらいたい。
- G20でも海洋プラスチックゴミの話が出たが、おそらくこれが次の塩竈の課題となる。海だけでなく陸の問題や、SDGsなどが次の塩竈の大きな課題となる。今から取り組んでいかないと、港全体で取り組むということにはならない。宮城県でも沿岸部の都市でいろいろと始めようとしているが、ぜひ積極的に取り組んでいてもらいたい。

⑤ まちづくりの目標3「夢と誇りを創るまち」について

報告 No. 6 子どもの心のケアハウス運営事業について

報告 No. 7 小中一貫教育推進事業について

- 教育の分野の取組はとても重要な取組である。今後5年10年15年と続くような、塩竈市としての戦略的な取組として、小中一貫教育をはじめとした教育に関わる取組については良い方向に行っていると思うし、関係者も大変努力していると思う。テストの結果にいきなり反映することは難しいので、3年や5年といった息の長い取組として進めていてもらいたい。
- 小中学生を中心にしているので教育の取組ではあるが、教育の枠の話だけではない。住民自治や市民自治といった、市役所が担っていることを市民の方に担っていただくということはこれから益々出てくるが、このような教育がなければ市を支えることはできないと思っている。小中一貫教育に象徴されるような教育の取組は大きな波及効果があり、次の塩竈の基盤をつくっていくことにつながるので、息長く幅広く戦略的に取り組んでももらいたい。三年後くらいにはもっとはっきりとした効果が出てくると思うので、期待している。

## 6 アンケート集計結果

別紙2を参照。